

72 Konchi-in Temple Edo Period Kyoto City Nanzenji Tel:075-771-3511

金地院崇伝は家康を初め三代に渡って徳川幕府に務めた名僧。彼は小堀遠州に設計させ、賢庭が施工した。鶴亀島、蓬莱山と型どおりであるが、手前に白砂により大海をあらわし、背後には大刈り込みを配して深山幽谷の趣を醸しだしている。鶴島、亀島の石は申し分なく、この石を正面からがっしりと石組している。またこの庭の本当の意味は礼拝石にある。この異常に大きな板状の石は、本来は石橋用として寄進されたものであるが、ここではどこの庭にも無い礼拝石として使用した。と云うのは分厚い橋を渡って神仙島に行くのは秀吉好みのテーマであるから、小堀遠州は徳川の世を寿ぐための庭にはそぐわないのと判断した。

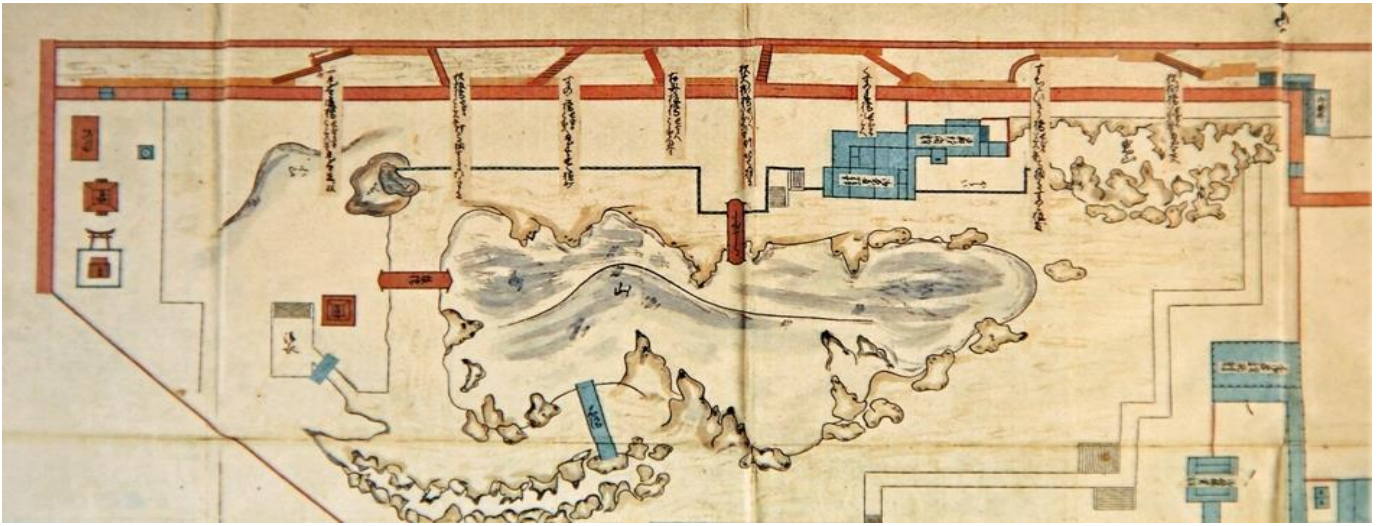
鶴島は鶴首石で鶴を象徴して秀逸であり、さらに鶴の背には三尊石組による羽石の造形や、その他に多くの色石が組まれ圧巻である。亀島は伏せた形の亀頭石は力強く迫力がある。亀甲石は三宝院のそれと類似した名石だ。また亀の背に聳えている柏槇(びやくしん)は聖樹であり、その姿は荘厳ともいふべきか。



全景 一対の鶴島(右)・亀島(左)を配し、中央に遙拝石と蓬莱山を組んだ小堀遠州枯山水の傑作。



亀島：低く頭を下げた力強い亀島。亀の背には柏槇の樹齢700年とも云われる古木があるが、禅寺に相応しい風格である



仙洞御所の古図（寛永度後水尾院御所指図）では大半の護岸は直線だ。



仙洞御所の洲浜：仙洞御所で唯一残る遠州の切石の幾何学造形



鶴島と遥拝石：鶴首石と鶴の背に乗る三尊形の羽石。直方体の鶴首石と羽石が直交する造形は遠州ならではの斬新な試み



海洋に浮かぶ神仙島が復元された。なお、この庭は枯山水のため、護岸の石組が不必要なため、鶴、亀の造形を象徴的に石組みされた。



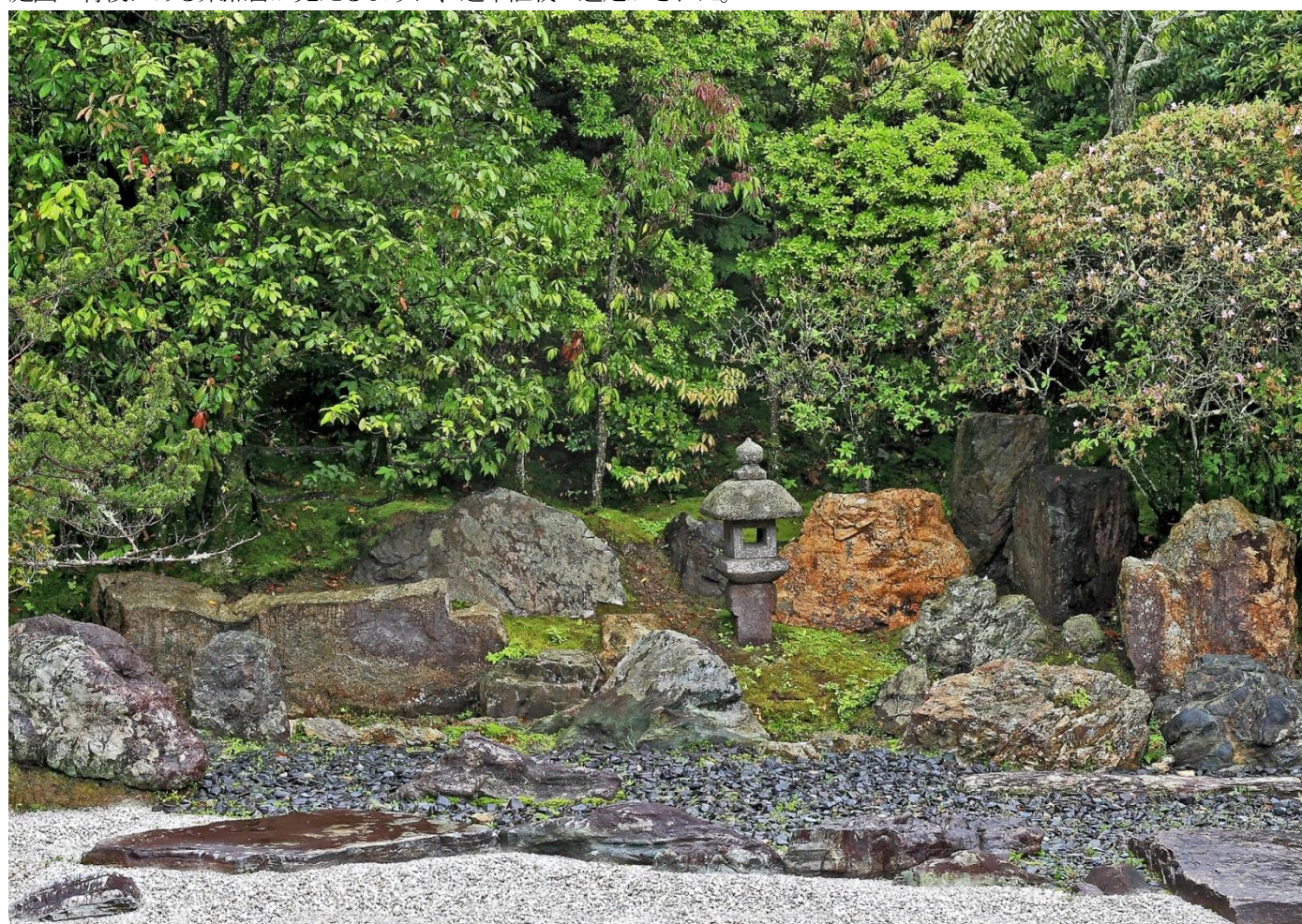
鶴島越しに遥拝石付近を観察すると、方丈から見て奥にある、栗石からの遥拝石は15cm位の高さがあるが、方丈側の白砂からは5cm程度である。この原因は白砂の入れ替え時に、旧白砂の除去が十分ではない。よって、白砂のレベルは約10cm下げる必要がある。2P下段の写真は私が仮想復元したのであるが、本来はこのような幾何学造形であった。



亀島の背には全体未聞の石組みがされた。



庭園の背後にある東照宮が見えるように、近年植栽の選定がされた。



散る島と亀島の間には蓬莱山石組みがある。中央の三角形の石は富士石と言われ、小堀遠州のサインのようなもの。